

授業計画 (シラバス)

札幌情報未来専門学校

開講年度	2025年度	科目名	Java III	
<b>科目基本情報</b>				
学科区分	全学科共通		単位数	6 単位
学 年	2年次		時間数	120 時間
開講学期	前 期		授業形態	演 習
履修区分	必 修		教員の実務経験	有
<b>授業・科目情報</b>				
学習目的	本講座はJavaのサーバサイドアプリケーション開発を学ぶ基本講座です。 JSP & サーブレットの仕組みを理解するため、実際にWebシステムの開発作業を通じて、実績に近いシステム開発を学習します。			
到達目標	・ Servlet と JSP を利用したサーバサイドアプリケーション開発ができる			
教科書・教材	基礎からのサーブレットJSP 第5版 / SBクリエイティブ(株)			
授業計画	回	内 容		
	1	サーブレットとJSPの基本概念		
	2	サーブレットの基本		
	3	サーブレットの基本		
	4	サーブレットによるリクエストの処理		
	5	サーブレットによるリクエストの処理		
	6	いろいろなリクエストパラメータ		
	7	JSPの基本		
	8	JSPの基本		
	9	JSPによるリクエストの処理とエラーページ		
	10	いろいろな画面遷移		
	11	いろいろな画面遷移		
	12	サーブレットの詳細		
	13	HTTPのリクエストとレスポンス		
	14	JavaBean		
15	スコープとリクエスト属性			
授業の進め方・履修の心構え	<ul style="list-style-type: none"> <li>積極的に授業に参加し、知識を吸収する意欲を持ちましょう</li> <li>集中して授業内容を理解し、質問や議論に積極的に参加しましょう</li> <li>新しい概念や知識に対して柔軟な考え方をもち、理解に時間がかかっても忍耐強く取り組みましょう</li> </ul>			
目標資格	Javaプログラミング能力認定試験2級			
試験の実施方法	単位認定試験の有無	有	試験形式	文書試験
成績評価方法 ※具体的に記入のこと	(1) 課題の提出状況および理解度 (2) 出席率80%以上および授業の積極性による評価 (3) 単位認定試験の点数			
評価基準	S : 100 ~ 90 点 A : 89 ~ 80 点 B : 79 ~ 60 点		C : 59 ~ 50 点 D : 49 点以下 ※評価基準 S ~ C は合格、D は不合格	

授業計画 (シラバス)

札幌情報未来専門学校

開講年度	2025年度	科目名	システム検証Ⅰ	
科目基本情報				
学科区分	ITエンジニア学科	単位数	3単位	
学年	2年次	時間数	60時間	
開講学期	前期	授業形態	演習	
履修区分	必修	教員の実務経験	有	
授業・科目情報				
学習目的	実際の業務現場では、新規開発案件よりも既存システムを流用して拡張していくことが多いのが実情です。そこで、本科目では、出来上がったシステムを検証し、より良いものにするという方向の開発作業を実践していきます。			
到達目標	アプリケーションの問題点を発見し、修正できる。 上流工程の理論を理解する。 各設計書（仕様書）を読み解き、簡易なコンソールアプリケーションの設計ができる。			
教科書・教材	オリジナル			
授業計画	回	内容		
	1	開発関連の用語、開発手法や開発の流れの理解		
	2	簡易なコンソールアプリケーションの分析		
	3	問題点の抽出（テストを含む）		
	4	入力データの整合性チェック		
	5	改造方法の提案と仕様の変更		
	6	仕様通りのコーディング		
	7	【実習】Webベースでのプログラムの分析		
	8	【実習】仕様の作成		
	9	【実習】仕様の作成とレビュー		
	10	【実習】コーディング		
	11	【実習】コーディング		
	12	【実習】単体テスト		
	13	【実習】仕様の修正		
	14	【実習】コードの修正		
15	実習結果発表 単位認定試験			
授業の進め方・履修の心構え	<ul style="list-style-type: none"> <li>・他科目との進捗を考慮し、コンソールアプリケーションの分析と改造で基本を知り、Webアプリケーションへと応用していく</li> <li>・ユーザー（利用者）側に立ってアプリケーションを考えながら受講する</li> </ul>			
目標資格				
試験の実施方法	単位認定試験の有無	有	試験形式	文書試験
成績評価方法 ※具体的に記入のこと	(1) 課題の提出状況および完成度 (2) 出席率80%以上および授業の積極性による評価 (3) 単位認定試験の点数			
評価基準	S：100～90点 A：89～80点 B：79～60点		C：59～50点 D：49点以下 ※評価基準S～Cは合格、Dは不合格	

授業計画 (シラバス)

札幌情報未来専門学校

開講年度	2025年度	科目名	ビジネスマナー	
<b>科目基本情報</b>				
学科区分	ITエンジニア学科	単位数	2単位	
学年	2年次	時間数	30時間	
開講学期	前期	授業形態	講義	
履修区分	必修	教員の実務経験	有	
<b>授業・科目情報</b>				
学習目的	ビジネスマナーの基本を身につけて、時間的にも心にも余裕をもって就職活動を行うことを目的とします。			
到達目標	1. 自信をもって就職活動を行える。 2. 就職活動の手順を理解できる。			
教科書・教材	改訂新版 入社1年目ビジネスマナーの教科書／プレジデント社オリジナル			
授業計画	回	内容		
	1	ガイダンス、第1章 身だしなみの基本		
	2	第2章 コミュニケーションの基本		
	3	第6章 敬語の基本		
	4	第7章 報告・連絡・相談の基本		
	5	第3章 話し方・聞き方		
	6	第10章 ビジネス文書の基本		
	7	実践練習1 ビジネス文書の手書き対応		
	8	第11章 ビジネスメールの基本		
	9	第4章 テレワークの基本、第5章 電話対応の基本		
	10	第9章 訪問の基本		
	11	実践練習2 メールから応募書類の送付まで		
	12	実践練習2 メールから応募書類の送付まで		
	13	実践練習3 アポイントメントから会社訪問まで		
	14	実践練習4 就職試験		
15	総まとめ			
授業の進め方・履修の心構え	毎週、授業開始10～15分程度で、前週に学んだことの振り返りとして小テストを行います。 講義とテストを通してマナーを身に着けることが重要です。			
目標資格				
試験の実施方法	単位認定試験の有無	有	試験形式	文書試験
成績評価方法 ※具体的に記入のこと	(1) 出席率80%以上および授業の積極性による評価 (2) 課題の提出状況、小テスト (3) 単位認定試験の点数			
評価基準	S：100～90点 A：89～80点 B：79～60点		C：59～50点 D：49点以下 ※評価基準S～Cは合格、Dは不合格	

授業計画 (シラバス)

札幌情報未来専門学校

開講年度	2025年度	科目名	Webサイト構築	
<b>科目基本情報</b>				
学科区分	全学科共通	単位数	3 単位	
学 年	2年次	時間数	60 時間	
開講学期	前 期	授業形態	演 習	
履修区分	選 択	教員の実務経験	有	
<b>授業・科目情報</b>				
学習目的	スマートデバイスが普及しWebの利用形態も多様化しています。様々なデバイスに対応可能なWebデザイン手法について、実践を通して学びます。			
到達目標	ゼロから自分でデザインしWebサイトを構築できる			
教科書・教材	Figma これからはじめるFigma Web・UIデザイン入門			
授業計画	回	内 容		
	1	Webデザインのための環境構築		
	2	ワイヤーフレーム作成方法		
	3	既存のサイトからワイヤーフレーム作成		
	4	デザインキャンプ作成方法		
	5	デザインキャンプ作成方法		
	6	デザインキャンプ作成方法		
	7	デザインキャンプ作成方法		
	8	デザインキャンプからWebサイト作成演習		
	9	デザインキャンプからWebサイト作成演習		
	10	オリジナルWebページ構築～企画・ワイヤーフレーム作成		
	11	オリジナルWebページ構築～企画・ワイヤーフレーム作成		
	12	オリジナルWebページ構築～キャンプデザイン作成		
	13	オリジナルWebページ構築～キャンプデザイン作成		
	14	オリジナルWebページ構築～キャンプデザインを元にコーディング		
15	オリジナルWebページ構築～キャンプデザインを元にコーディング			
授業の進め方・履修の心構え	Figmaの使い方を学び、ゼロからデザインを作成しそこからWEBサイト作成することができるようしていきます。コーディングをデザインに沿って正確に行えるようにします。			
目標資格				
試験の実施方法	単位認定試験の有無	無	試験形式	—
成績評価方法 ※具体的に記入のこと	(1) 課題の提出状況および完成度 (2) 出席率80%以上および授業の積極性による評価 (3) オリジナル制作物による評価			
評価基準	S：100～90点 A： 89～80点 B： 79～60点		C：59～50点 D： 49点以下 ※評価基準S～Cは合格、Dは不合格	

授業計画 (シラバス)

札幌情報未来専門学校

開講年度	2025年度	科目名	Word演習	
<b>科目基本情報</b>				
学科区分	全学科共通	単位数	3 単位	
学 年	2年次	時間数	60 時間	
開講学期	前 期	授業形態	演 習	
履修区分	選 択	教員の実務経験	有	
<b>授業・科目情報</b>				
学習目的	Wordの基礎となる設定を理解し、ビジネス文書や見栄えのする文書を作成・編集するための高度な技術を学習していきます。さらにもう一つの目標である認定試験合格のためのテクニックを学習します。			
到達目標	高度な編集技術を身に付け、文書処理技能認定試験に合格する。			
教科書・教材	Wordマスター演習問題集 2021/2019/365対応／ムゲンダイ出版 2021対応Word文書処理技能認定試験1・2級問題集／サーティファイ			
授業計画	回	内 容		
	1	入力練習と文書編集		
	2	段落書式		
	3	表の挿入と編集		
	4	差し込み印刷		
	5	ヘッダー・フッター		
	6	スタイル		
	7	グラフィックスの挿入		
	8	相互参照・目次・索引		
	9	変更履歴とコメント		
	10	検定試験対策 1 (知識・実技問題の実施及び解説)		
	11	検定試験対策 2 (知識・実技問題の実施及び解説)		
	12	検定試験対策 3 (知識・実技問題の実施及び解説)		
	13	検定試験対策 4 (知識・実技問題の実施及び解説)		
	14	検定試験対策 5 (知識・実技問題の実施及び解説)		
15	検定試験対策 6 (知識・実技問題の実施及び解説)			
授業の進め方・履修の心構え	演習問題を解きながらWordを使いこなす応用力や考える力を養います。 1級取得を目指してほしいです。			
目標資格	Word文書処理技能認定試験 2 級以上			
試験の実施方法	単位認定試験の有無	無	試験形式	—
成績評価方法 ※具体的に記入のこと	(1) 課題の提出状況および完成度 (2) 出席率80%以上および授業の積極性による評価 (3) 検定試験の結果による評価			
評価基準	S : 100～90点 A : 89～80点 B : 79～60点		C : 59～50点 D : 49点以下 ※評価基準 S～Cは合格、Dは不合格	

授業計画 (シラバス)

札幌情報未来専門学校

開講年度	2025年度	科目名	マネジメント II	
<b>科目基本情報</b>				
学科区分	ITエンジニア学科	単位数	3 単位	
学 年	2年次	時間数	60 時間	
開講学期	前 期	授業形態	演 習	
履修区分	選 択	教員の実務経験	有	
<b>授業・科目情報</b>				
学習目的	マネジメントについての体系的な知識の概要を理解し、企業の経営戦略およびIT戦略を立案、これを遂行するための実践力を学びます。			
到達目標	IT関連業務の全容を把握し、マネジメントしていくための手法を習得することを目的としています。			
教科書・教材	オリジナルテキスト			
授業計画	回	内 容		
	1	マネジメントとは		
	2	プロジェクトとは		
	3	システム開発とは		
	4	経営・システム戦力とは		
	5	ステークホルダーの関わり方		
	6	どうしたらできるか、「6W2H」の考え方		
	7	要求事項をまとめ方		
	8	「成果物」「スケジュール」を可視化する		
	9	「戦略的思考」とは/「マネージャー」「リーダー」の違い		
	10	仮想会社へのヒアリング①		
	11	仮想会社への企画提案① (立案)		
	12	仮想会社への企画提案② (資料作成)		
	13	仮想会社への企画提案③ (資料作成)		
	14	プレゼンテーション①		
15	プレゼンテーション②			
授業の進め方・履修の心構え	オリジナル課題を使うのでわからないことは率先して聞いてください。企画力・提案力・発想力を付けるため、様々な自由な発想をして欲しいです。			
目標資格				
試験の実施方法	単位認定試験の有無	無	試験形式	—
成績評価方法 ※具体的に記入のこと	(1) 出席率80%以上および授業の積極性による評価 (2) 課題の提出状況 (3) 最終課題の完成状況			
評価基準	S : 100~90点 A : 89~80点 B : 79~60点		C : 59~50点 D : 49点以下 ※評価基準 S~Cは合格、Dは不合格	

授業計画 (シラバス)

札幌情報未来専門学校

開講年度	2025年度	科目名	国家試験対策 II	
科目基本情報				
学科区分	全学科共通		単位数	2 単位
学 年	2年次		時間数	30 時間
開講学期	前 期		授業形態	講 義
履修区分	選 択		教員の実務経験	有
授業・科目情報				
学習目的	「国家試験対策 I」に引き続き、国家試験の過去問を用いた問題演習および解説を通して、試験問題に慣れ、その解き方を身に付けていきます。特に基本情報技術者試験の修了認定試験合格者向けに科目Bの問題の演習を中心に行います。			
到達目標	基本情報技術者試験合格レベル			
教科書・教材	基本情報技術者科目B問題集／(株)インフォテック・サーブ 基本情報技術者科目B模擬試験／TAC(株)			
授業計画	回	内 容		
	1	科目B問題の内容理解と練習 (データ構造)		
	2	科目B問題の内容理解と練習 (データ構造)		
	3	科目B問題の内容理解と練習 (データ構造)		
	4	科目B問題の内容理解と練習 (アルゴリズム)		
	5	科目B問題の内容理解と練習 (アルゴリズム)		
	6	科目B問題の内容理解と練習 (アルゴリズム)		
	7	小テスト		
	8	科目B問題の内容理解と練習 (プログラミング)		
	9	科目B問題の内容理解と練習 (プログラミング)		
	10	科目B問題の内容理解と練習 (プログラミング)		
	11	科目B問題の内容理解と練習 (情報セキュリティ)		
	12	科目B問題の内容理解と練習 (情報セキュリティ)		
	13	科目B問題の内容理解と練習 (情報セキュリティ)		
	14	小テスト		
15	総まとめ			
授業の進め方・履修の心構え	「国家試験対策 I」を履修したことが条件になります。科目Aの問題よりさらに専門的な知識を求められるので、今まで学習した基礎知識の復習が大切になります。			
目標資格	基本情報技術者試験			
試験の実施方法	単位認定試験の有無	無	試験形式	—
成績評価方法 ※具体的に記入のこと	(1) 小テスト (2) 出席率80%以上および授業の積極性による評価 (3) 模擬試験の点数			
評価基準	S : 100～90点 A : 89～80点 B : 79～60点		C : 59～50点 D : 49点以下 ※評価基準 S～Cは合格、Dは不合格	

授業計画 (シラバス)

札幌情報未来専門学校

開講年度	2025年度	科目名	2DCG演習	
<b>科目基本情報</b>				
学科区分	全学科共通	単位数	1 単位	
学 年	2年次	時間数	30 時間	
開講学期	前 期	授業形態	演 習	
履修区分	選 択	教員の実務経験	有	
<b>授業・科目情報</b>				
学習目的	デザイナーの現場で使われることの多いAdobeのIllustratorについて、仕事として扱うための実践的なノウハウを学習します。デザインパーツの作成手順や、印刷媒体・Web媒体におけるポイントをおさえて魅力的な作品を制作しましょう。			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・Illustratorの基本操作を理解する</li> <li>・作業効率化のための機能を扱うことができる</li> <li>・印刷媒体・Web媒体作成時のポイントを理解し、自力で作品を制作できる</li> </ul>			
教科書・教材	Illustratorデザイン 仕事の教科書 プロに必須の実践TIPS&テクニック/MdN			
授業計画	回	内 容		
	1	イントロダクション/Illustratorの基本機能		
	2	Illustratorの基本機能		
	3	デザインパーツの作成		
	4	デザインパーツの作成		
	5	デザインパーツの作成		
	6	作業効率化の機能について		
	7	作業効率化の機能について		
	8	印刷(Web)媒体で注意するポイント		
	9	フライヤー作成		
	10	フライヤー作成		
	11	バナー画像作成		
	12	バナー画像作成		
	13	ランディングページ作成		
	14	ランディングページ作成		
15	ランディングページ作成			
授業の進め方・履修の心構え	講師による説明後、演習を行います。 基礎技術定着の為に十分な復習を行うことを期待します。			
目標資格	特になし			
試験の実施方法	単位認定試験の有無	無	試験形式	—
成績評価方法 ※具体的に記入のこと	(1) 課題の提出状況 (2) 制作物の出来栄 (3) 出席率80%以上および授業の積極性による評価			
評価基準	S：100～90点 A：89～80点 B：79～60点		C：59～50点 D：49点以下 ※評価基準S～Cは合格、Dは不合格	

授業計画 (シラバス)

札幌情報未来専門学校

開講年度	2025年度	科目名	AI概論 II	
科目基本情報				
学科区分	ITエンジニア学科	単位数	1 単位	
学 年	2年次	時間数	30 時間	
開講学期	前 期	授業形態	演 習	
履修区分	選 択	教員の実務経験	有	
授業・科目情報				
学習目的	AIの基礎知識の復習からAIの利用目的、各種開発・研究におけるAIの利用を学びます。			
到達目標	AIの利用目的・開発・研究分野の考え方を理解する。			
教科書・教材	基礎から学ぶ 人工知能の教科書 / オーム社			
授業計画	回	内 容		
	1	人工知能の概要		
	2	人工知能の歴史		
	3	機械学習の原理と方法		
	4	機械学習の手法		
	5	知識表現と推論		
	6	ニューラルネットワーク		
	7	深層学習		
	8	進化的計算と群知能		
	9	自然言語処理		
	10	画像認識		
	11	エージェントと強化学習		
	12	人工知能とゲーム		
	13	人工知能のこれから		
	14	人工知能の応用例		
15	総まとめ			
授業の進め方・履修の心構え	AI概論 I を受講した学生が対象になります。テキストとスライドを利用して学習していきます。			
目標資格				
試験の実施方法	単位認定試験の有無	有	試験形式	文書試験
成績評価方法 ※具体的に記入のこと	(1) 課題の提出状況および完成度 (2) 出席率80%以上および授業の積極性による評価 (3) 単位認定試験の点数			
評価基準	S : 100~90点 A : 89~80点 B : 79~60点		C : 59~50点 D : 49点以下 ※評価基準 S~C は合格、D は不合格	

授業計画 (シラバス)

札幌情報未来専門学校

開講年度	2025年度	科目名	DTM演習	
科目基本情報				
学科区分	ITエンジニア学科	単位数	1単位	
学年	2年次	時間数	30時間	
開講学期	前期	授業形態	演習	
履修区分	選択	教員の実務経験	有	
授業・科目情報				
学習目的	<p>「感性をくすぐる音作り」</p> <p>情報の中で大切な『音』を幅広く捉え、音楽 (BGM)、効果音 (SE)、ナレーション (Na) など、制作・編集しながら、映像作品にも欠かすことができない、感性をくすぐる音作りを学習します。</p>			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ DTMソフト「GarageBand」の活用</li> <li>・ 音楽ジャンルの知識</li> <li>・ 編曲をする際に必要なアナログ楽器についての知識</li> <li>・ 音を加える作品の世界観を理解し、サウンドを生み出す能力</li> </ul>			
教科書・教材				
授業計画	回	内容		
	1	Guidance (DTMとは何か?)		
	2	Sound Wave (音を見る   音楽とマルチメディア)		
	3	GarageBandの基本操作①		
	4	GarageBandの基本操作②		
	5	コンピュータミュージックの歴史		
	6	効果音 (SE) とナレーション (1枚の写真から想像する物語)		
	7	アナログ楽器についての知識 (演奏方法や音域など楽器の持つ特製)		
	8	Sound Design① (3枚の写真から想像する物語)		
	9	Sound Design② (絵本につける音楽とナレーション)		
	10	家具の音楽(アンビエントミュージック)大量生産され消費される音楽の対極にあるもの		
	11	動画素材に合わせた音作り① (15秒CM)		
	12	動画素材に合わせた音作り② (30秒CM)		
	13	動画素材に合わせた音作り③ (3分)		
	14	動画素材に合わせた音作り④ (3分)		
15	作品発表会			
授業の進め方・履修の心構え	DTMソフト「GarageBand」の操作を中心に、オリジナリティのある音楽制作を繰り返しながら、映像に合わせた音作りを学びます。			
目標資格	特になし			
試験の実施方法	単位認定試験の有無	無	試験形式	-
成績評価方法 ※具体的に記入のこと	<p>(1) 課題の提出状況および完成度</p> <p>(2) 出席率80%以上および授業の積極性による評価</p> <p>(3) オリジナル制作物による評価</p>			
評価基準	S : 100~90点 A : 89~80点 B : 79~60点		C : 59~50点 D : 49点以下 ※評価基準 S~Cは合格、Dは不合格	

開講年度	2025年度	科目名	アプリ制作Ⅰ	
科目基本情報				
学科区分	ITエンジニア学科	単位数	1 単位	
学 年	2年次	時間数	30 時間	
開講学期	前 期	授業形態	演 習	
履修区分	選 択	教員の実務経験	有	
授業・科目情報				
学習目的	本講座は、React Nativeによるモバイルアプリ開発の基礎講座です。 授業を通じて、モバイルアプリ開発の基本概念を理解し、アプリデザインの基礎を習得することが学習目標です。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. モバイルアプリ開発の基本概念を理解し、React Nativeの利用方法を学ぶ</li> <li>2. JSX、コンポーネント、スタイリングなどの基本構文を理解する</li> <li>3. React Nativeのフレームワークやコンポーネントを活用し、アプリ機能の実装スキルを習得する</li> <li>4. デバッグツールやエミュレータを使用し、テストとデバッグを行い品質を確保する方法を学ぶ</li> <li>5. 要件定義・基本設計、画面設計を行い、アプリの設計や開発の流れを理解する</li> <li>6. コードの最適化やリファクタリングを通じて効率的なモバイルアプリ開発の技術を身に付ける</li> </ol>			
教科書・教材	オリジナルテキスト 基礎から学ぶReact Native入門／翔泳社			
授業計画	回	内 容		
	1	モバイルアプリ開発の基礎		
	2	TypeScriptの基本 1 TypeScriptの基礎		
	3	TypeScriptの基本 2 TypeScriptの応用		
	4	TypeScriptの基本 3 総合演習		
	5	React Nativeの開発環境構築		
	6	React Nativeの基本、コンポーネントの作成・再利用		
	7	React Hooksの使い方		
	8	画面遷移の実装		
	9	データ永続化と状態管理		
	10	API通信		
	11	アプリ制作 (規定課題 1)		
	12	アプリ制作 (規定課題 2)		
	13	アプリ制作 (自由課題 1)		
	14	アプリ制作 (自由課題 2)		
15	アプリ制作 (自由課題 3)			
授業の進め方・履修の心構え	テキスト並びにそれに準じた課題制作を通じて、モバイルアプリ開発の実践的なスキルを身に付けます。 ・積極的に授業に参加し、知識を吸収する意欲を持ちましょう ・集中して授業内容を理解し、質問や議論に積極的に参加しましょう ・新しい概念や知識に対して柔軟な考え方をもち、理解に時間がかかっても忍耐強く取り組みましょう			
目標資格	特になし			
試験の実施方法	単位認定試験の有無	無	試験形式	-
成績評価方法 ※具体的に記入のこと	(1) 課題の提出状況・内容の質 (2) 出席率80%以上および授業の積極性による評価 (3) オリジナル制作物			
評価基準	S : 100～90点 A : 89～80点 B : 79～60点		C : 59～50点 D : 49点以下 ※評価基準S～Cは合格、Dは不合格	

授業計画 (シラバス)

札幌情報未来専門学校

開講年度	2025年度	科目名	ゲーム開発演習Ⅰ	
<b>科目基本情報</b>				
学科区分	全学科共通	単位数	1 単位	
学 年	2年次	時間数	15 時間	
開講学期	前 期	授業形態	演 習	
履修区分	選 択	教員の実務経験	有	
<b>授業・科目情報</b>				
学習目的	ゲームコンセプトやテーマを深く理解し、独自のゲーム企画案を立案できる ゲームプレイ体験を向上させるための要素およびユーザー体験を理解できる ゲーム企画書の構成や具体的なゲームアイデアを文書化し、プレゼンテーションができる			
到達目標	オリジナルゲーム企画の立案 アナログゲームコンテスト「ゲームアイデアコンテスト」へ応募			
教科書・教材	オリジナル教材			
授業計画	回	内 容		
	1	ゲームデザイン概論		
	2	ゲームデザイン概論		
	3	ゲームコンセプト分析		
	4	ゲームシステム分析		
	5	ゲームシステム分析		
	6	ユーザー体験分析		
	7	アナログゲーム改修演習		
	8	アナログゲーム改修演習		
	9	アナログゲーム改修成果発表		
	10	企画書作成基礎		
	11	企画書作成演習		
	12	アナログゲーム制作		
	13	アナログゲーム制作		
	14	アナログゲーム制作		
15	アナログゲーム制作			
授業の進め方・履修の心構え	ゲームアイデアコンテスト応募に向け、遊びとは何か？面白くなる理由を掘り下げます。 ・遊ぶだけではなく、なぜ面白いのかを常に考えるようにしてください。 ・レポートの作成があります ・コンテスト応募では、完成を目指してください。			
目標資格	特になし			
試験の実施方法	単位認定試験の有無	無	試験形式	—
成績評価方法 ※具体的に記入のこと	(1) 課題の提出状況および完成度 (2) 出席率80%以上および授業の積極性による評価			
評価基準	S：100～90点 A： 89～80点 B： 79～60点		C：59～50点 D： 49点以下 ※評価基準S～Cは合格、Dは不合格	

授業計画 (シラバス)

札幌情報未来専門学校

開講年度	2025年度	科目名	サーバ演習	
<b>科目基本情報</b>				
学科区分	ITエンジニア学科	単位数	1単位	
学年	2年次	時間数	30時間	
開講学期	前期	授業形態	演習	
履修区分	選択	教員の実務経験	有	
<b>授業・科目情報</b>				
学習目的	サーバに関する基礎知識から始め、ネットワークやセキュリティとの関わり、サーバの種類や役割について学んでいきます。実機を用いた学習により、クライアントとサーバとの違いや設定方法について理解を深めます。			
到達目標	サーバについての基礎知識の習得、ネットワークやセキュリティとの関わりを理解を目標とします。			
教科書・教材	いちばんやさしい新しいサーバの教本/㈱インプレス			
授業計画	回	内容		
	1	ネットワークについて復習する		
	2	IPアドレスの計算について復習する		
	3	ネットワーク図を学び、身の回りにあるサーバのネットワーク図を作成する		
	4	学校のネットワーク図を作成する①		
	5	学校のネットワーク図を作成する②		
	6	学校のネットワーク図を作成する③		
	7	作成したネットワーク図を発表する		
	8	サーバの役割を知る		
	9	Webアプリについて知る		
	10	仮想化技術について知る		
	11	仮想サーバ上にWebサーバを構築する①		
	12	仮想サーバ上にWebサーバを構築する②		
	13	仮想サーバ上にWebサーバを構築する③		
	14	オンプレミスとクラウドの違いを知る		
15	インフラエンジニアの仕事について知る			
授業の進め方・履修の心構え	教科書やスライドをもとに解説をし、適宜パソコンを使用して演習を行います。成果物については必要に応じて提出してもらいます。			
目標資格	基本情報技術者試験			
試験の実施方法	単位認定試験の有無	有	試験形式	文書試験
成績評価方法 ※具体的に記入のこと	(1) 課題の提出状況および完成度 (2) 出席率80%以上および授業の積極性による評価 (3) 単位認定試験の点数			
評価基準	S : 100~90点 A : 89~80点 B : 79~60点		C : 59~50点 D : 49点以下 ※評価基準S~Cは合格、Dは不合格	

授業計画 (シラバス)

札幌情報未来専門学校

開講年度	2025年度	科目名	デザイン基礎	
科目基本情報				
学科区分	ITエンジニア学科	単位数	1単位	
学年	2年次	時間数	30時間	
開講学期	前期	授業形態	演習	
履修区分	選択	教員の実務経験	有	
授業・科目情報				
学習目的	主に「デザインの基本ルール」および「デザイン制作の流れ」の2つを学びます。デザインには「センス」が重要とよくいわれますが、デザインの長い歴史の中で「人が美しいと感じつ配置」や「気分が高揚する配色」というような実践的なテクニック、ルールを学ぶことで、制作する目的に沿ったデザインができるようになります。			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・誰に何を伝えたいのかというデザインの目的を明確にできる</li> <li>・その目的の実現のために最適なデザイン手法を理解し、実践できる</li> </ul>			
教科書・教材	デザイン入門教室/SBクリエイティブ(株)			
授業計画	回	内容		
	1	デザイン制作の流れ/レイアウトの基本ルール		
	2	レイアウトの基本ルール		
	3	練習課題①		
	4	写真と画像の使い方		
	5	練習課題②		
	6	配色		
	7	練習課題③		
	8	文字と書体		
	9	練習課題④		
	10	文書のデザイン		
	11	インフォグラフィック		
	12	練習課題⑤		
	13	単位認定課題		
	14	単位認定課題		
15	単位認定課題			
授業の進め方・履修の心構え	講師による説明後、演習を行います。 基礎技術定着の為に十分な復習を行うことを期待します。			
目標資格	特になし			
試験の実施方法	単位認定試験の有無	無	試験形式	-
成績評価方法 ※具体的に記入のこと	(1) 課題の提出状況 (2) 制作物の出来栄 (3) 出席率80%以上および授業の積極性による評価			
評価基準	S : 100~90点 A : 89~80点 B : 79~60点		C : 59~50点 D : 49点以下 ※評価基準S~Cは合格、Dは不合格	

授業計画 (シラバス)

札幌情報未来専門学校

開講年度	2025年度	科目名	キャリア探求	
<b>科目基本情報</b>				
学科区分	ITエンジニア学科	単位数	4 単位	
学 年	2年次	時間数	60 時間	
開講学期	後 期	授業形態	講 義	
履修区分	必 修	教員の実務経験	有	
<b>授業・科目情報</b>				
学習目的	就職準備のための授業です。講座の中で自分の理想とする職業像をイメージし、就職活動に必須の準備を終了させます。自己分析・企業研究から始まる履歴書完成、エントリーシート準備、面接試験対策など具体的に作業していきます。机上の作業だけでなく、足・目・頭など体を十分に動かして準備していきましょう。			
到達目標	春休み前から就職活動を開始し、早期内定取得			
教科書・教材				
授業計画	回	内 容		
	1	就職活動の進め方／自分史の作成		
	2	働くことについて／自己分析・作文		
	3	自己分析・作文		
	4	自己分析・作文／業界・企業研究		
	5	業界・企業研究／給与・税金・保険・年金について		
	6	業界・企業研究／IT業界について		
	7	前年度生からの就活プレゼン／履歴書の作り方（経歴・資格欄）		
	8	前年度生からの就活プレゼン／面接試験について		
	9	前年度生からの就活プレゼン／就職活動計画		
	10	前年度生からの就活プレゼン／履歴書の作り方（自己PR）		
	11	履歴書の作り方（自己PR）／面接練習		
	12	履歴書の作り方（志望動機）／面接練習		
	13	履歴書の作り方（志望動機）／面接練習		
	14	履歴書の作り方（見本作成）／面接練習		
15	履歴書の作り方（見本作成）／面接練習			
授業の進め方・履修の心構え	早期内定獲得に向け、言われてやるのではなく自主的な姿勢で臨みましょう。就職活動に必要な物は、本番がスタートする前に用意しておきましょう。			
目標資格				
試験の実施方法	単位認定試験の有無	無	試験形式	—
成績評価方法 ※具体的に記入のこと	(1) 課題の提出状況および完成度 (2) 模擬面接による評価 (3) 出席率80%以上および授業の積極性による評価			
評価基準	S：100～90点 A： 89～80点 B： 79～60点		C：59～50点 D： 49点以下 ※評価基準S～Cは合格、Dは不合格	

授業計画 (シラバス)

札幌情報未来専門学校

開講年度	2025年度	科目名	JSP・Servlet演習	
<b>科目基本情報</b>				
学科区分	全学科共通	単位数	3単位	
学年	2年次	時間数	60時間	
開講学期	後期	授業形態	演習	
履修区分	必修	教員の実務経験	有	
<b>授業・科目情報</b>				
学習目的	<p>本講座はJavaのサーバサイドアプリケーション開発を学ぶ応用講座です。                  JSP &amp; サーブレットの仕組みを理解するため、実際にWebシステムの開発作業を通じて、実績に近いシステム開発を学習します。</p>			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ データベースを利用したアプリケーション開発ができる</li> <li>・ MVCモデルに準拠したアプリケーション開発ができる</li> </ul>			
教科書・教材	基礎からのサーブレットJSP 第5版 / SBクリエイティブ(株)			
授業計画	回	内容		
	1	セッションとクッキー		
	2	セッションとクッキー		
	3	外部データの取り込み		
	4	アクションタグ		
	5	EL		
	6	EL		
	7	JSTL		
	8	JSTL		
	9	Javaとデータベースの連携		
	10	Javaとデータベースの連携		
	11	DAOオブジェクト		
	12	MVCモデルについて		
	13	単位認定課題		
	14	単位認定課題		
15	単位認定課題			
授業の進め方・履修の心構え	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 積極的に授業に参加し、知識を吸収する意欲を持ちましょう</li> <li>・ 集中して授業内容を理解し、質問や議論に積極的に参加しましょう</li> <li>・ 新しい概念や知識に対して柔軟な考え方をもち、理解に時間がかかっても忍耐強く取り組みましょう</li> </ul>			
目標資格				
試験の実施方法	単位認定試験の有無	無	試験形式	—
成績評価方法 ※具体的に記入のこと	(1) 課題の提出状況および理解度 (2) 出席率80%以上および授業の積極性による評価 (3) 単位認定課題の制作物による評価			
評価基準	S : 100～90点 A : 89～80点 B : 79～60点		C : 59～50点 D : 49点以下 ※評価基準S～Cは合格、Dは不合格	

授業計画 (シラバス)

札幌情報未来専門学校

開講年度	2025年度	科目名	システム検証 II	
科目基本情報				
学科区分	ITエンジニア学科	単位数	3 単位	
学 年	2年次	時間数	60 時間	
開講学期	後 期	授業形態	演 習	
履修区分	必 修	教員の実務経験	有	
授業・科目情報				
学習目的	システム開発をする際、設計時には多くのドキュメントを作成します。本科目では、開発時の設計書を元に制作物をトレースしていきます。目の前で実行されているシステムにはどんな画面遷移があるのか、どれだけのプログラムが書かれているか、システムを追いかけながら検証していきます。			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 既存コードから、そこに至るまでの工程を理解し、仕様を書き起こせること。</li> <li>・ テスト手法を理解しテストできること。</li> <li>・ 部分的な設計書（外部。内部）を作成できること。</li> </ul>			
教科書・教材				
授業計画	回	内 容		
	1	開発の流れの理解・要件定義の理解		
	2	既存コードから要件定義書の書き起こし		
	3	外部設計の理解		
	4	既存画面から外部設計書の作成		
	5	結合テストの理解		
	6	結合テストの実行とバグレポートの作成		
	7	内部設計の理解		
	8	既存コードから内部設計書の作成		
	9	設計書からコードの書き起こし		
	10	単体テストの理解と実行		
	11	単体テストの実行		
	12	【実習】要件定義の理解と外部・内部設計書作成		
	13	【実習】要件定義の理解と外部・内部設計書作成		
	14	【実習】要件定義の理解と外部・内部設計書作成及びコーディング		
15	成果物の提出 認定試験			
授業の進め方・履修の心構え	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ やや複雑なWebアプリケーションからバグを探し報告書を作成するところから始める</li> <li>・ 外部設計及び内部設計の書き方を理解</li> <li>・ SEの仕事の一部を理解する</li> </ul>			
目標資格				
試験の実施方法	単位認定試験の有無	有	試験形式	文書試験
成績評価方法 ※具体的に記入のこと	(1) 課題の提出状況および完成度 (2) 出席率80%以上および授業の積極性による評価 (3) 単位認定試験の点数			
評価基準	S : 100～90点 A : 89～80点 B : 79～60点		C : 59～50点 D : 49点以下 ※評価基準 S～C は合格、D は不合格	

授業計画 (シラバス)

札幌情報未来専門学校

開講年度	2025年度	科目名	Access演習	
<b>科目基本情報</b>				
学科区分	全学科共通	単位数	3 単位	
学 年	2年次	時間数	60 時間	
開講学期	後 期	授業形態	演 習	
履修区分	選 択	教員の実務経験	有	
<b>授業・科目情報</b>				
学習目的	データベースの基本から「テーブル」「クエリ」「フォーム」「レポート」といった主要機能、関数やマクロまでを、データベースの活用事例を通じて、実務レベルにおけるAccessの利用方法・操作技法を習得します。さらに、もう一つの目標である認定試験合格のためのテクニックを学習します。			
到達目標	Accessの基礎から応用まで幅広く知識を身に付け、ビジネスデータベース技能認定試験に合格する。			
教科書・教材	Access 2019 テキスト基礎編／ムゲンダイ出版 2021対応Accessビジネスデータベース技能認定試験問題集／サーティファイ			
授業計画	回	内 容		
	1	Accessの基礎		
	2	テーブル作成と編集		
	3	フォーム作成と編集		
	4	クエリ 1		
	5	クエリ 2		
	6	クエリ 3		
	7	クエリ 4		
	8	リレーションシップ		
	9	レポート作成と編集		
	10	サブフォームとサブレポート		
	11	マクロ		
	12	検定試験対策 1		
	13	検定試験対策 2		
	14	検定試験対策 3		
15	検定試験対策 4			
授業の進め方・履修の心構え	教科書に沿って学習します。適宜補助プリントも使用します。 学習内容が多く進み方も早いです。欠席しないようにしてください。			
目標資格	Accessビジネスデータベース技能認定試験 2 級			
試験の実施方法	単位認定試験の有無	無	試験形式	—
成績評価方法 ※具体的に記入のこと	(1) 課題の提出状況および完成度 (2) 出席率80%以上および授業の積極性による評価 (3) 検定試験の結果による評価			
評価基準	S : 100～90点 A : 89～80点 B : 79～60点		C : 59～50点 D : 49点以下 ※評価基準 S～C は合格、D は不合格	

授業計画 (シラバス)

札幌情報未来専門学校

開講年度	2025年度	科目名	グループワークⅠ	
<b>科目基本情報</b>				
学科区分	ITエンジニア学科	単位数	3単位	
学年	2年次	時間数	60時間	
開講学期	後期	授業形態	演習	
履修区分	選択	教員の実務経験	有	
<b>授業・科目情報</b>				
学習目的	次年度、総合制作を間近に控えたクラスを対象に開講。システムや作品を作り上げるために学年を越えて意思交換、意見交換をスムーズに行うために簡単なグループワークを通して学ぶことを目的とします。			
到達目標	簡単なグループワークを通して他学年との交流深め、他者との意思交換できる力を身につける。 1. 他学年との交流を深める。 2. 他学年との意思交換、意見交換を行う。			
教科書・教材				
授業計画	回	内容		
	1	ガイダンス、グループ制作の特性、意味		
	2	グループワーク (チーム毎に作業)		
	3	グループワーク (チーム毎に作業)		
	4	グループワーク (チーム毎に作業)、プレゼン発表		
	5	プレゼン発表、チーム作業の振り返り		
	6	グループワーク (チーム毎に作業)		
	7	グループワーク (チーム毎に作業)		
	8	グループワーク (チーム毎に作業)		
	9	グループワーク (チーム毎に作業)、プレゼン発表		
	10	プレゼン発表、チーム作業の振り返り		
	11	グループワーク (チーム毎に作業)		
	12	グループワーク (チーム毎に作業)		
	13	グループワーク (チーム毎に作業)		
	14	グループワーク (チーム毎に作業)、プレゼン発表		
15	プレゼン発表、チーム作業の振り返り			
授業の進め方・履修の心構え	他学年との交流を行い、チームの在り方を学ぶ。最低限の礼儀を守りつつ年齢性別を越えて意思交換・意見交換をしてもらいたいです。			
目標資格				
試験の実施方法	単位認定試験の有無	無	試験形式	—
成績評価方法 ※具体的に記入のこと	(1) 出席率80%以上および授業の積極性による評価 (2) 課題の提出状況 (3) グループワーク、プレゼンによる評価			
評価基準	S : 100~90点 A : 89~80点 B : 79~60点		C : 59~50点 D : 49点以下 ※評価基準S~Cは合格、Dは不合格	

授業計画 (シラバス)

札幌情報未来専門学校

開講年度	2025年度	科目名	システムマネジメント	
<b>科目基本情報</b>				
学科区分	ITエンジニア学科	単位数	3単位	
学年	2年次	時間数	60時間	
開講学期	後期	授業形態	演習	
履修区分	選択	教員の實務経験	有	
<b>授業・科目情報</b>				
学習目的	システムマネジメントの中でもプロジェクトマネジメントについて学ぶ。「交渉」～「保守改善」まで一連の流れを基に沿って進めていく。具体的に仮想企業に対するプロジェクトを考えてノウハウを学習します。			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>プロジェクトに関する、企画・提案・見積・スケジュールのノウハウを身につける。</li> <li>チームでのプロジェクト提案を行う。</li> </ul>			
教科書・教材	プロジェクトマネジメントの基本が全部わかる本/翔泳社 オリジナルテキスト			
授業計画	回	内容		
	1	プロジェクトマネジメントのスキル		
	2	プロジェクトとはなにか (基本的な知識と考え方)		
	3	交渉 (適切なパートナーシップを築こう)		
	4	タスクマネジメント (チームでパスワードをしよう)		
	5	プロジェクト計画 (目標や進め方を決めよう)		
	6	見積り/契約 (必要な費用とスケジュールを構想しよう)		
	7	要件定義/デザイン (顧客が本当に必要だったものを目指そう)		
	8	設計		
	9	テスト/リリース/保守改善		
	10	実践応用① (チーム作業)		
	11	実践応用② (チーム作業)		
	12	実践応用③ (チーム作業)		
	13	実践応用④ (チーム作業)		
	14	提案発表① (チーム作業)		
15	提案発表② (チーム作業)			
授業の進め方・履修の心構え	架空の会社をベースに、実際のプロジェクト同様な企画・提案・見積・スケジュールを考えていく。様々な視点でPDCAを続けていく。			
目標資格				
試験の実施方法	単位認定試験の有無	無	試験形式	—
成績評価方法 ※具体的に記入のこと	(1) 出席率80%以上および授業の積極性による評価 (2) 課題の提出状況 (3) 成果物の完成度			
評価基準	S : 100～90点 A : 89～80点 B : 79～60点		C : 59～50点 D : 49点以下 ※評価基準S～Cは合格、Dは不合格	

授業計画 (シラバス)

札幌情報未来専門学校

開講年度	2025年度	科目名	Web応用 I	
<b>科目基本情報</b>				
学科区分	全学科共通	単位数	2 単位	
学 年	2年次	時間数	60 時間	
開講学期	後 期	授業形態	実 習	
履修区分	選 択	教員の実務経験	有	
<b>授業・科目情報</b>				
学習目的	webサイトにおいて動きのあるサイトを作成する方法を学びます。 そのために必要な最新のJavaScriptの基礎知識とjQuery、CSSを学びます。			
到達目標	WEBサイトに様々な動きやデザインを組み込むことができるようになり、それを活用してサイトを構築する。			
教科書・教材	確かな力が身につくJavaScript「超」入門 第2版/SBクリエイティブ			
授業計画	回	内 容		
	1	JavaScriptの環境構築とSCSSについて		
	2	JavaScriptの基本文法		
	3	JavaScriptのイベントとオブジェクト		
	4	JavaScriptで画像操作やスライドショー		
	5	JavaScriptで画像操作やスライドショー		
	6	ゲーム制作課題		
	7	ゲーム制作課題		
	8	jQueryについて/ナビゲーションメニューやアニメーション		
	9	WebAPIについて		
	10	WebAPI課題		
	11	単位認定課題①		
	12	単位認定課題②		
	13	単位認定課題③		
	14	単位認定課題④		
15	単位認定課題⑤			
授業の進め方・履修の心構え	最初は教科書に沿って基礎的なことを学び、演習で自分で調べて実装する力を身に着ける。学んだことを生かして、プログラミングしWebページに組み込むことができる。			
目標資格				
試験の実施方法	単位認定試験の有無	無	試験形式	—
成績評価方法 ※具体的に記入のこと	(1) 課題の提出状況および完成度 (2) 出席率80%以上および授業の積極性による評価 (3) オリジナル制作物による評価			
評価基準	S : 100~90点 A : 89~80点 B : 79~60点		C : 59~50点 D : 49点以下 ※評価基準S~Cは合格、Dは不合格	

授業計画 (シラバス)

札幌情報未来専門学校

開講年度	2025年度	科目名	国家試験対策Ⅲ	
<b>科目基本情報</b>				
学科区分	ITエンジニア学科	単位数	2 単位	
学 年	2年次	時間数	30 時間	
開講学期	後 期	授業形態	講 義	
履修区分	選 択	教員の実務経験	有	
<b>授業・科目情報</b>				
学習目的	「国家試験対策Ⅱ」に引き続き、国家試験の過去問を用いた問題演習および解説を通して、試験問題に慣れ、その解き方を身に付けていきます。特に基本情報技術者試験の修了認定試験合格者向けに科目Bの問題の演習を中心に行います。			
到達目標	基本情報技術者試験合格レベル			
教科書・教材	基本情報技術者科目B問題集／(株)インフォテック・サーブ 基本情報技術者科目B模擬試験／TAC(株)			
授業計画	回	内 容		
	1	科目B問題の内容理解と練習 (データ構造)		
	2	科目B問題の内容理解と練習 (データ構造)		
	3	科目B問題の内容理解と練習 (データ構造)		
	4	科目B問題の内容理解と練習 (アルゴリズム)		
	5	科目B問題の内容理解と練習 (アルゴリズム)		
	6	科目B問題の内容理解と練習 (アルゴリズム)		
	7	小テスト		
	8	科目B問題の内容理解と練習 (プログラミング)		
	9	科目B問題の内容理解と練習 (プログラミング)		
	10	科目B問題の内容理解と練習 (プログラミング)		
	11	科目B問題の内容理解と練習 (情報セキュリティ)		
	12	科目B問題の内容理解と練習 (情報セキュリティ)		
	13	科目B問題の内容理解と練習 (情報セキュリティ)		
	14	小テスト		
15	総まとめ			
授業の進め方・履修の心構え	「国家試験対策Ⅱ」を履修したことが条件になります。わからない箇所を明確にし、自分の苦手分野を理解して学習を行うことが重要になります。			
目標資格	基本情報技術者試験			
試験の実施方法	単位認定試験の有無	無	試験形式	—
成績評価方法 ※具体的に記入のこと	(1) 小テスト (2) 出席率80%以上および授業の積極性による評価 (3) 模擬試験の点数			
評価基準	S : 100～90点 A : 89～80点 B : 79～60点		C : 59～50点 D : 49点以下 ※評価基準 S～Cは合格、Dは不合格	

授業計画 (シラバス)

札幌情報未来専門学校

開講年度	2025年度	科目名	3DCG演習	
<b>科目基本情報</b>				
学科区分	全学科共通	単位数	1 単位	
学 年	2年次	時間数	30 時間	
開講学期	後 期	授業形態	演 習	
履修区分	選 択	教員の実務経験	有	
<b>授業・科目情報</b>				
学習目的	Blenderを使用した3Dモデル制作を学習します。まずは基礎的な内容から始め、レンダリングやアニメーション等の3DCGには欠かせない技術を学習します。			
到達目標	基本的な3D技術の理解及び習得を目標とする。習得した技術を使いオリジナルのモデルを作ります。			
教科書・教材	作りながら楽しく覚える Blender／ラトルズ			
授業計画	回	内 容		
	1	Blenderの基本操作・初期設定		
	2	モデリング・モデリングの基礎		
	3	モデリング・キャラクター		
	4	モデリング・キャラクター		
	5	質感設定 (マテリアル・UVテクスチャ)		
	6	質感設定 (マテリアル・UVテクスチャ)		
	7	モデリング・応用		
	8	カメラ・ライティング・レンダリング		
	9	カメラ・ライティング・レンダリング		
	10	モデリング (背景) +レンダリング		
	11	モデリング (背景) +レンダリング		
	12	復習と自由制作準備		
	13	自由制作		
	14	自由制作		
15	制作物発表および評価			
授業の進め方・履修の心構え	講師による説明後、問題解答と演習を行います。 基礎技術定着の為に十分な復習を行うことを期待します。			
目標資格	特になし			
試験の実施方法	単位認定試験の有無	無	試験形式	—
成績評価方法 ※具体的に記入のこと	(1) 課題の提出状況および完成度 (2) 出席率80%以上および授業の積極性による評価 (3) オリジナル制作物による評価			
評価基準	S : 100～90点 A : 89～80点 B : 79～60点		C : 59～50点 D : 49点以下 ※評価基準 S～Cは合格、Dは不合格	

授業計画 (シラバス)

札幌情報未来専門学校

開講年度	2025年度	科目名	AIプログラミング I	
<b>科目基本情報</b>				
学科区分	ITエンジニア学科	単位数	1 単位	
学 年	2年次	時間数	30 時間	
開講学期	後 期	授業形態	演 習	
履修区分	選 択	教員の実務経験	有	
<b>授業・科目情報</b>				
学習目的	Pythonは、AIに関連の言語として人気が出てきているプログラミング言語です。Pythonを学ぶための準備からプログラムの書き方、基本文法、制御構文、関数までの基礎学習、簡単なアプリの制作や機械学習を体験演習を行い、初級Pythonエンジニアを目指します。			
到達目標	Pythonの基礎構文を理解し、プログラムが組めるようになる。			
教科書・教材	やさしいPython / SBクリエイティブ			
授業計画	回	内 容		
	1	Pythonの基礎と環境構築		
	2	変数と式		
	3	条件分岐、繰り返し		
	4	リスト		
	5	コレクション		
	6	関数		
	7	クラス		
	8	文字列と正規表現		
	9	ファイルと例外処理		
	10	中間まとめ		
	11	機械学習の基礎		
	12	機械学習の応用		
	13	AIプログラミングについて		
	14	演習①		
15	演習②			
授業の進め方・履修の心構え	教科書や資料をもとに解説をし、適宜パソコンを使用して演習を行います。成果物については必要に応じて提出してもらいます。Javaが苦手でもPythonだとわかることがあるので、プログラミング言語を苦手でもプログラミングの楽しさ、奥深さを学んでください			
目標資格				
試験の実施方法	単位認定試験の有無	有	試験形式	文書試験
成績評価方法 ※具体的に記入のこと	(1) 課題の提出状況および完成度 (2) 出席率80%以上および授業の積極性による評価 (3) 制作物による評価			
評価基準	S : 100~90点 A : 89~80点 B : 79~60点		C : 59~50点 D : 49点以下 ※評価基準S~Cは合格、Dは不合格	

開講年度	2025年度	科目名	アプリ制作 II	
<b>科目基本情報</b>				
学科区分	ITエンジニア学科	単位数	1 単位	
学 年	2年次	時間数	30 時間	
開講学期	後 期	授業形態	演 習	
履修区分	選 択	教員の実務経験	有	
<b>授業・科目情報</b>				
学習目的	<p>本講座はモバイルアプリ開発分野を学ぶ基礎講座です。</p> <p>現代のモバイルアプリ開発では大きく分けてデバイスOSに依存するネイティブアプリとデバイスOSに依存しないハイブリッドアプリの2種類が存在します。</p> <p>本講座では、ネイティブアプリの開発を通して、ハイブリッドアプリ開発との相違を理解する事が学習目標です。</p>			
到達目標	<p>1.ハイブリッドアプリ開発との相違を理解する。</p> <p>2.ネイティブアプリの開発プラットフォームであるXcodeとSwift UIを使用し、ネイティブアプリ(iOSアプリ)の開発方法を取得する。</p>			
教科書・教材	たった2日でマスターできるiPhoneアプリ開発開発集中講座/ソシム(株)			
授業計画	回	内 容		
	1	ネイティブアプリとは		
	2	SwiftおよびSwift UIとは		
	3	Xcodeの使い方		
	4	制作課題1：じゃんけんアプリ(Swiftの基本を学ぶ)		
	5	制作課題1：じゃんけんアプリ(Swiftの基本を学ぶ)		
	6	制作課題1：じゃんけんアプリ(Swiftの基本を学ぶ)		
	7	制作課題2：楽器アプリ(音の扱い方を学ぶ)		
	8	制作課題2：楽器アプリ(音の扱い方を学ぶ)		
	9	制作課題2：楽器アプリ(音の扱い方を学ぶ)		
	10	制作課題3：マップ検索アプリ(マップAPIの使い方を学ぶ)		
	11	制作課題3：マップ検索アプリ(マップAPIの使い方を学ぶ)		
	12	制作課題3：マップ検索アプリ(マップAPIの使い方を学ぶ)		
	13	制作課題4：タイマーアプリ(画面遷移とデータの永続化を学ぶ)		
	14	制作課題4：タイマーアプリ(画面遷移とデータの永続化を学ぶ)		
15	制作課題4：タイマーアプリ(画面遷移とデータの永続化を学ぶ)			
授業の進め方・履修の心構え	<p>テキスト並びにそれに準じた課題制作を通して、モバイルアプリ開発のスキルを身に付けます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・積極的に授業に参加し、知識を吸収する意欲を持ちましょう</li> <li>・集中して授業内容を理解し、質問や議論に積極的に参加しましょう</li> <li>・新しい概念や知識に対して柔軟な考え方をもち、理解に時間がかかっても忍耐強く取り組みましょう</li> </ul>			
目標資格	特になし			
試験の実施方法	単位認定試験の有無	無	試験形式	—
成績評価方法 ※具体的に記入のこと	<p>(1) 課題の提出状況および完成度</p> <p>(2) 出席率80%以上および授業の積極性による評価</p>			
評価基準	S：100～90点 A： 89～80点 B： 79～60点		C：59～50点 D： 49点以下 ※評価基準S～Cは合格、Dは不合格	

授業計画 (シラバス)

札幌情報未来専門学校

開講年度	2025年度	科目名	ゲーム開発演習 II	
<b>科目基本情報</b>				
学科区分	全学科共通	単位数	1 単位	
学 年	2年次	時間数	15 時間	
開講学期	後 期	授業形態	演 習	
履修区分	選 択	教員の実務経験	有	
<b>授業・科目情報</b>				
学習目的	UEFNを用いてゲーム内のマップやステージの設計。実装ができる レベルデザインの基本的な理論を理解し、ゲームの環境設計や空間利用、プレイヤーの導線を考慮した設計ができる ゲームデザインの学びを振り返り、改善と自己評価ができる			
到達目標	独自企画をレベルデザインに落とし込み、スタートからゴールまでゲームプレイできる 成果物を適切にプレゼンテーションできる			
教科書・教材				
授業計画	回	内 容		
	1	コンテスト応募振り返り		
	2	イベント参加・セッション聴講		
	3	ゲームAI作成演習		
	4	ユーザーインターフェース概論		
	5	レベルデザイン概論		
	6	レベルデザイン 課外演習		
	7	レベルデザインダイアグラム		
	8	UEFN入門		
	9	レベルデザイン演習		
	10	レベルデザイン演習		
	11	レベルデザイン演習		
	12	レベルデザインドキュメント作成		
	13	レベルデザインドキュメント作成		
	14	レベルデザイン プレゼンテーション		
15	1年の振り返り			
授業の進め方・履修の心構え	UEFNを用いてゲームのステージを作成します。どうしたら面白くなるのかを常に考えながら制作を心がけてください。			
目標資格	特になし			
試験の実施方法	単位認定試験の有無	無	試験形式	—
成績評価方法 ※具体的に記入のこと	(1) 課題の提出状況および完成度 (2) 出席率80%以上および授業の積極性による評価			
評価基準	S : 100～90点 A : 89～80点 B : 79～60点		C : 59～50点 D : 49点以下 ※評価基準 S～Cは合格、Dは不合格	

授業計画 (シラバス)

札幌情報未来専門学校

開講年度	2025年度	科目名	動画制作 I	
科目基本情報				
学科区分	ITエンジニア学科	単位数	1 単位	
学 年	2年次	時間数	30 時間	
開講学期	後 期	授業形態	演 習	
履修区分	選 択	教員の実務経験	有	
授業・科目情報				
学習目的	AdobePremiereとAfterEffectsの使い方の基礎を学びます。			
到達目標	基本的な動画制作の理解及び習得を目標とする。			
教科書・教材	PremierePro & AfterEffects ムービー制作の教科書 / 技術評論社			
授業計画	回	内 容		
	1	A&P初期設定 ファイルを読み込む 保存する		
	2	Premiereの基本 シーケンスを並べる		
	3	トランジションとエフェクト		
	4	テロップ BGMを設定		
	5	オーディオ編集 動画出力する		
	6	AfterEffectsの基本 フッテージを読み込む		
	7	テキストアニメーション		
	8	シェイプとマスク		
	9	レイヤー エフェクト		
	10	動画出力 メディアエンコーダー		
	11	オリジナルTips Premiere AEとの連携		
	12	オリジナルTips AfterEffects PS AIとの連携		
	13	習得技術を使った動画制作1		
	14	習得技術を使った動画制作2		
15	作品発表提出および評価			
授業の進め方・履修の心構え	講師による解説やデモンストレーション後、実践演習を行います。基礎技術定着の為に十分な復習を行うことを期待します。			
目標資格	特になし			
試験の実施方法	単位認定試験の有無	無	試験形式	-
成績評価方法 ※具体的に記入のこと	(1) 課題の提出状況および完成度 (2) 出席率80%以上および授業の積極性による評価 (3) オリジナル制作物による評価			
評価基準	S : 100~90点 A : 89~80点 B : 79~60点		C : 59~50点 D : 49点以下 ※評価基準 S~Cは合格、Dは不合格	

授業計画 (シラバス)

札幌情報未来専門学校

開講年度	2025年度	科目名	グラフィック応用Ⅰ	
<b>科目基本情報</b>				
学科区分	ITエンジニア学科	単位数	1単位	
学年	2年次	時間数	30時間	
開講学期	後期	授業形態	実習	
履修区分	選択	教員の実務経験	有	
<b>授業・科目情報</b>				
学習目的	これまで学習したCGの知識をもとに、より洗練されたデザインテクニックについて学習します。人を惹きつけるデザインや自分の目的を相手に伝える手法を学びながら、自分のオリジナルデザインを制作します。			
到達目標	より複雑なデザインテクニックの手法を理解し、それをもとに自分の伝えたい内容をデザインに表現することを目標とします。			
教科書・教材	なるほどデザイン 目で見て楽しむ新しいデザインの本。/エムディエヌコーポレーション			
授業計画	回	内容		
	1	ガイダンス (授業の進め方・より複雑なデザインの考え方・MacOSの操作)		
	2	Photoshop・Illustratorの応用操作		
	3	iMovie (動画作成) の基本操作		
	4	写真を活用した映像制作		
	5	Garageband (音楽作成) の基本操作		
	6	Garageband (ナレーション) の録音・編集		
	7	Garageband (音楽作成) の実践		
	8	iMovie (動画作成) の実践		
	9	動画撮影の基本テクニック		
	10	字コンテ・絵コンテの基本知識		
	11	作品制作の準備 (作品のコンセプト・何を伝えるのか・絵コンテ作成) <input checked="" type="checkbox"/>		
	12	作品制作 1 <input checked="" type="checkbox"/>		
	13	作品制作 2		
	14	作品制作 3		
15	作品発表会 (作品の発表評価) <input checked="" type="checkbox"/>			
授業の進め方・履修の心構え	<p>最初にデザインテクニックについて教科書をもとに学習し、以降は自分の表現したいものをデザインしていきます。また、音楽や映像などマルチメディアの要素を取り入れながら、自由な発想力をもって作品作成を行います。</p> <p>講師による説明後、演習を行います。基礎技術定着の為に十分な復習を行うことを期待します。毎回授業中に課題を出し、メールで提出してもらいます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ベストチョイス (出題テーマについて思うこと)</li> <li>・ベストスナップ (自分で撮影した写真にタイトルをつけ提出)</li> <li>・ベストサウンド (心に残った音を報告)</li> </ul>			
目標資格				
試験の実施方法	単位認定試験の有無	無	試験形式	-
成績評価方法 ※具体的に記入のこと	(1) 課題の提出状況および完成度 (2) 出席率80%以上および授業の積極性による評価 (3) オリジナル制作物による評価			
評価基準	S : 100~90点 A : 89~80点 B : 79~60点		C : 59~50点 D : 49点以下 ※評価基準 S~Cは合格、Dは不合格	

授業計画 (シラバス)

札幌情報未来専門学校

開講年度	2025年度	科目名	基本情報技術者受験対策講座Ⅰ	
<b>科目基本情報</b>				
学科区分	全学科共通	単位数	2単位	
学年	全学年共通	時間数	30時間	
開講学期	前期	授業形態	講義	
履修区分	選択	教員の実務経験	有	
<b>授業・科目情報</b>				
学習目的	<p>本科目は、情報処理推進機構基本情報技術者試験の合格に向け、出題範囲や問題の内容理解を目的とし講義を通して対策を行います。科目A試験及び、科目B試験の出題分野ごとの出題範囲から、問題の難易度や出題傾向を把握するとともに、自身の得意分野、苦手分野の把握と対策を行うことで、より効果的に学習を進めます。</p>			
到達目標	基本情報技術者試験合格レベル			
教科書・教材				
授業計画	回	内容		
	1	科目A試験問題の内容理解と練習 (ハードウェア)		
	2	科目A試験問題の内容理解と練習 (情報処理システム)		
	3	科目A試験問題の内容理解と練習 (ソフトウェア)		
	4	科目A試験問題の内容理解と練習 (データベース)		
	5	科目A試験問題の内容理解と練習 (ネットワーク)		
	6	科目A試験問題の内容理解と練習 (情報セキュリティ)		
	7	科目A試験問題の内容理解と練習 (経営戦略・情報戦略)		
	8	科目A試験問題の内容理解と練習 (データ構造とアルゴリズム)		
	9	科目B試験問題の内容理解と練習 (情報セキュリティ)		
	10	科目B試験問題の内容理解と練習 (情報セキュリティ)		
	11	科目B試験問題の内容理解と練習 (アルゴリズムとプログラミング)		
	12	科目B試験問題の内容理解と練習 (アルゴリズムとプログラミング)		
	13	科目B試験問題の内容理解と練習 (アルゴリズムとプログラミング)		
	14	科目B試験問題の内容理解と練習 (アルゴリズムとプログラミング)		
15	総まとめ			
授業の進め方・履修の心構え	<p>科目A試験免除保持者は科目B試験問題を、未保持者は科目A試験・科目B試験両方に取り組みます。制限時間以内に解くことも心掛けましょう。</p>			
目標資格	基本情報技術者試験			
試験の実施方法	単位認定試験の有無	無	試験形式	—
成績評価方法 ※具体的に記入のこと	<p>(1) 授業中に実施する確認テスト (2) 出席率80%以上および授業の積極性による評価</p>			
評価基準	<p>S : 100～90点 A : 89～80点 B : 79～60点</p>		<p>C : 59～50点 D : 49点以下 ※評価基準S～Cは合格、Dは不合格</p>	

授業計画 (シラバス)

札幌情報未来専門学校

開講年度	2025年度	科目名	応用情報技術者受験対策講座Ⅰ	
<b>科目基本情報</b>				
学科区分	全学科共通	単位数	2単位	
学年	全学年共通	時間数	30時間	
開講学期	前期	授業形態	講義	
履修区分	選択	教員の実務経験	有	
<b>授業・科目情報</b>				
学習目的	<p>本科目は、情報処理推進機構応用情報技術者試験の合格に向け、出題範囲や問題の内容理解を目的とし講義を通して対策を行います。午前試験及び、午後試験の出題分野ごとの出題範囲から、問題の難易度や出題傾向を把握するとともに、自身の得意分野、苦手分野の把握と対策を行うことで、より効果的に学習を進めます。</p>			
到達目標	<p>応用情報技術者試験合格レベル</p>			
教科書・教材				
授業計画	回	内容		
	1	午前問題の内容理解と練習 (基礎理論)		
	2	午前問題の内容理解と練習 (コンピュータシステム)		
	3	午前問題の内容理解と練習 (技術要素・開発技術)		
	4	午前問題の内容理解と練習 (マネジメント)		
	5	午前問題の内容理解と練習 (システム戦略・経営戦略)		
	6	午前問題の内容理解と練習 (企業と法務)		
	7	午後問題の内容理解と練習 (情報セキュリティ)		
	8	午後問題の内容理解と練習 (経営戦略・情報戦略・コンサルティング)		
	9	午後問題の内容理解と練習 (プログラミング・アルゴリズム)		
	10	午後問題の内容理解と練習 (ネットワーク)		
	11	午後問題の内容理解と練習 (データベース)		
	12	午後問題の内容理解と練習 (システム開発)		
	13	午後問題の内容理解と練習 (マネジメント)		
	14	午後問題の内容理解と練習 (システム監査)		
15	総まとめ			
授業の進め方・履修の心構え	<p>出題分野ごとに得点率を把握し、自分の得意、不得意な分野を明確にすることが大切です。制限時間以内に解くことも心掛けましょう。</p>			
目標資格	<p>応用情報技術者試験</p>			
試験の実施方法	単位認定試験の有無	無	試験形式	—
成績評価方法 ※具体的に記入のこと	<p>(1) 授業中に実施する確認テスト (2) 出席率80%以上および授業の積極性による評価</p>			
評価基準	<p>S : 100～90点 A : 89～80点 B : 79～60点</p>		<p>C : 59～50点 D : 49点以下 ※評価基準S～Cは合格、Dは不合格</p>	

授業計画 (シラバス)

札幌情報未来専門学校

開講年度	2025年度	科目名	基本情報技術者受験対策講座 II	
<b>科目基本情報</b>				
学科区分	全学科共通	単位数	2 単位	
学 年	全学年共通	時間数	30 時間	
開講学期	後 期	授業形態	講 義	
履修区分	選 択	教員の実務経験	有	
<b>授業・科目情報</b>				
学習目的	<p>本科目は、情報処理推進機構基本情報技術者試験の合格に向け、出題範囲や問題の内容理解を目的とし講義を通して対策を行います。科目A試験及び、科目B試験の出題分野ごとの出題範囲から、問題の難易度や出題傾向を把握するとともに、自身の得意分野、苦手分野の把握と対策を行うことで、より効果的に学習を進めます。</p>			
到達目標	基本情報技術者試験合格レベル			
教科書・教材				
授業計画	回	内 容		
	1	科目A試験問題の内容理解と練習 (ハードウェア)		
	2	科目A試験問題の内容理解と練習 (情報処理システム)		
	3	科目A試験問題の内容理解と練習 (ソフトウェア)		
	4	科目A試験問題の内容理解と練習 (データベース)		
	5	科目A試験問題の内容理解と練習 (ネットワーク)		
	6	科目A試験問題の内容理解と練習 (情報セキュリティ)		
	7	科目A試験問題の内容理解と練習 (経営戦略・情報戦略)		
	8	科目A試験問題の内容理解と練習 (データ構造とアルゴリズム)		
	9	科目B試験問題の内容理解と練習 (情報セキュリティ)		
	10	科目B試験問題の内容理解と練習 (情報セキュリティ)		
	11	科目B試験問題の内容理解と練習 (アルゴリズムとプログラミング)		
	12	科目B試験問題の内容理解と練習 (アルゴリズムとプログラミング)		
	13	科目B試験問題の内容理解と練習 (アルゴリズムとプログラミング)		
	14	科目B試験問題の内容理解と練習 (アルゴリズムとプログラミング)		
15	総まとめ			
授業の進め方・履修の心構え	科目A試験免除保持者は科目B試験問題を、未保持者は科目A試験・科目B試験両方に取り組みます。制限時間以内に解くことも心掛けましょう。			
目標資格	基本情報技術者試験			
試験の実施方法	単位認定試験の有無	無	試験形式	—
成績評価方法 ※具体的に記入のこと	<p>(1) 授業中に実施する確認テスト (2) 出席率80%以上および授業の積極性による評価</p>			
評価基準	S : 100～90点 A : 89～80点 B : 79～60点		C : 59～50点 D : 49点以下 ※評価基準 S～C は合格、D は不合格	

授業計画 (シラバス)

札幌情報未来専門学校

開講年度	2025年度	科目名	応用情報技術者受験対策講座 II	
<b>科目基本情報</b>				
学科区分	全学科共通	単位数	2 単位	
学 年	全学年共通	時間数	30 時間	
開講学期	後 期	授業形態	講 義	
履修区分	選 択	教員の実務経験	有	
<b>授業・科目情報</b>				
学習目的	<p>本科目は、情報処理推進機構応用情報技術者試験の合格に向け、出題範囲や問題の内容理解を目的とし講義を通して対策を行います。午前試験及び、午後試験の出題分野ごとの出題範囲から、問題の難易度や出題傾向を把握するとともに、自身の得意分野、苦手分野の把握と対策を行うことで、より効果的に学習を進めます。</p>			
到達目標	<p>応用情報技術者試験合格レベル</p>			
教科書・教材				
授業計画	回	内 容		
	1	午前問題の内容理解と練習 (基礎理論)		
	2	午前問題の内容理解と練習 (コンピュータシステム)		
	3	午前問題の内容理解と練習 (技術要素・開発技術)		
	4	午前問題の内容理解と練習 (マネジメント)		
	5	午前問題の内容理解と練習 (システム戦略・経営戦略)		
	6	午前問題の内容理解と練習 (企業と法務)		
	7	午後問題の内容理解と練習 (情報セキュリティ)		
	8	午後問題の内容理解と練習 (経営戦略・情報戦略・コンサルティング)		
	9	午後問題の内容理解と練習 (プログラミング・アルゴリズム)		
	10	午後問題の内容理解と練習 (ネットワーク)		
	11	午後問題の内容理解と練習 (データベース)		
	12	午後問題の内容理解と練習 (システム開発)		
	13	午後問題の内容理解と練習 (マネジメント)		
	14	午後問題の内容理解と練習 (システム監査)		
15	総まとめ			
授業の進め方・履修の心構え	<p>出題分野ごとに得点率を把握し、自分の得意、不得意な分野を明確にすることが大切です。制限時間以内に解くことも心掛けましょう。</p>			
目標資格	<p>応用情報技術者試験</p>			
試験の実施方法	単位認定試験の有無	無	試験形式	—
成績評価方法 ※具体的に記入のこと	<p>(1) 授業中に実施する確認テスト (2) 出席率80%以上および授業の積極性による評価</p>			
評価基準	<p>S : 100～90点 A : 89～80点 B : 79～60点</p>		<p>C : 59～50点 D : 49点以下 ※評価基準 S～C は合格、D は不合格</p>	

授業計画 (シラバス)

札幌情報未来専門学校

開講年度	2025年度	科目名	Javaプログラミング受験対策講座	
<b>科目基本情報</b>				
学科区分	全学科共通	単位数	2 単位	
学 年	全学年共通	時間数	30 時間	
開講学期	後 期	授業形態	講 義	
履修区分	選 択	教員の実務経験	有	
<b>授業・科目情報</b>				
学習目的	<p>本科目は、サーティファイ主催Javaプログラミング能力認定試験の合格に向け、出題範囲や問題の内容理解を目的とし講義を通して対策を行います。各級位の出題分野ごとの出題範囲から、問題の難易度や出題傾向を把握するとともに、自身の得意分野、苦手分野の把握と対策を行うことで、より効果的に学習を進めます。</p>			
到達目標	Javaプログラミング能力認定試験合格レベル			
教科書・教材				
授業計画	回	内 容		
	1	問題の内容理解と練習 (式と演算子)		
	2	問題の内容理解と練習 (条件分岐)		
	3	問題の内容理解と練習 (繰り返し)		
	4	問題の内容理解と練習 (配列)		
	5	問題の内容理解と練習 (メソッド)		
	6	問題の内容理解と練習 (クラスとインスタンス)		
	7	問題の内容理解と練習 (継承)		
	8	問題の内容理解と練習 (インターフェース)		
	9	問題の内容理解と練習 (多様性)		
	10	問題の内容理解と練習 (カプセル化)		
	11	問題の内容理解と練習 (クラスライブラリ)		
	12	問題の内容理解と練習 (例外)		
	13	問題の内容理解と練習 (スレッド)		
	14	問題の内容理解と練習 (GUI)		
15	総まとめ			
授業の進め方・履修の心構え	<p>出題分野ごとに得点率を把握し、自分の得意、不得意な分野を明確にすることが大切です。分からない問題は自分で実際にプログラミングし、実行結果を確認して理解を深めましょう。</p>			
目標資格	Javaプログラミング能力認定試験1～3級			
試験の実施方法	単位認定試験の有無	無	試験形式	—
成績評価方法 ※具体的に記入のこと	<p>(1) 授業中に実施する確認テスト (2) 出席率80%以上および授業の積極性による評価</p>			
評価基準	<p>S : 100～90点 A : 89～80点 B : 79～60点</p>		<p>C : 59～50点 D : 49点以下 ※評価基準 S～Cは合格、Dは不合格</p>	

開講年度	2025年度	科目名	MCP受験対策講座	
<b>科目基本情報</b>				
学科区分	全学科共通	単位数	2 単位	
学 年	全学年共通	時間数	30 時間	
開講学期	後 期	授業形態	講 義	
履修区分	選 択	教員の実務経験	有	
<b>授業・科目情報</b>				
学習目的	<p>本科目は、マイクロソフト認定資格プログラム（MCP：Microsoft Certification Program）の合格を目的とし、出題範囲や問題の内容理解を深め、講義を通して対策を行います。グレードごとに分かれた試験の問題難易度や出題傾向を理解し、講義形式で試験対策を行います。</p>			
到達目標	<p>マイクロソフト認定資格プログラム（MCP：Microsoft Certification Program）合格レベル</p>			
教科書・教材				
授業計画	回	内 容		
	1	問題の内容理解と練習（モビリティ）		
	2	問題の内容理解と練習（モビリティ）		
	3	問題の内容理解と練習（クラウド）		
	4	問題の内容理解と練習（クラウド）		
	5	問題の内容理解と練習（クラウド）		
	6	問題の内容理解と練習（データ）		
	7	問題の内容理解と練習（データ）		
	8	問題の内容理解と練習（データ）		
	9	問題の内容理解と練習（データ）		
	10	問題の内容理解と練習（生産性）		
	11	問題の内容理解と練習（App Builder）		
	12	問題の内容理解と練習（App Builder）		
	13	問題の内容理解と練習（ビジネスアプリケーション）		
	14	問題の内容理解と練習（ビジネスアプリケーション）		
	15	総まとめ		
授業の進め方・履修の心構え	<p>出題分野ごとに得点率を把握し、自分の得意、不得意な分野を明確にすることが大切です。制限時間以内に解くことも心掛けましょう。</p>			
目標資格	<p>マイクロソフト認定資格プログラム（MCP：Microsoft Certification Program）</p>			
試験の実施方法	単位認定試験の有無	無	試験形式	—
成績評価方法 ※具体的に記入のこと	<p>(1) 授業中に実施する確認テスト (2) 出席率80%以上および授業の積極性による評価</p>			
評価基準	<p>S：100～90点 A： 89～80点 B： 79～60点</p>		<p>C：59～50点 D： 49点以下 ※評価基準S～Cは合格、Dは不合格</p>	

授業計画 (シラバス)

札幌情報未来専門学校

開講年度	2025年度	科目名	MOS受験対策講座	
<b>科目基本情報</b>				
学科区分	全学科共通	単位数	2 単位	
学 年	全学年共通	時間数	30 時間	
開講学期	後 期	授業形態	講 義	
履修区分	選 択	教員の実務経験	有	
<b>授業・科目情報</b>				
学習目的	<p>本科目は、マイクロソフトオフィススペシャリスト (MOS : Microsoft Office Specialist) の合格を目的とし、出題範囲や問題の内容理解を深め、講義を通して対策を行います。各オフィスソフトでグレードごとに分かれた試験の問題難易度や出題傾向を理解し、講義形式で試験対策を行います。</p>			
到達目標	<p>マイクロソフトオフィススペシャリスト (MOS : Microsoft Office Specialist) 合格レベル</p>			
教科書・教材				
授業計画	回	内 容		
	1	問題の内容理解と練習 (Word)		
	2	問題の内容理解と練習 (Word)		
	3	問題の内容理解と練習 (Word)		
	4	問題の内容理解と練習 (Word)		
	5	問題の内容理解と練習 (Excel)		
	6	問題の内容理解と練習 (Excel)		
	7	問題の内容理解と練習 (Excel)		
	8	問題の内容理解と練習 (Excel)		
	9	問題の内容理解と練習 (PowerPoint)		
	10	問題の内容理解と練習 (PowerPoint)		
	11	問題の内容理解と練習 (PowerPoint)		
	12	問題の内容理解と練習 (Access)		
	13	問題の内容理解と練習 (Access)		
	14	問題の内容理解と練習 (Access)		
	15	問題の内容理解と練習 (Access)		
授業の進め方・履修の心構え	<p>出題分野ごとに得点率を把握し、自分の得意、不得意な分野を明確にすることが大切です。制限時間以内に解くことも心掛けましょう。</p>			
目標資格	<p>マイクロソフトオフィススペシャリスト (MOS : Microsoft Office Specialist)</p>			
試験の実施方法	単位認定試験の有無	無	試験形式	—
成績評価方法 ※具体的に記入のこと	<p>(1) 授業中に実施する確認テスト (2) 出席率80%以上および授業の積極性による評価</p>			
評価基準	<p>S : 100～90点 A : 89～80点 B : 79～60点</p>		<p>C : 59～50点 D : 49点以下 ※評価基準 S～C は合格、D は不合格</p>	